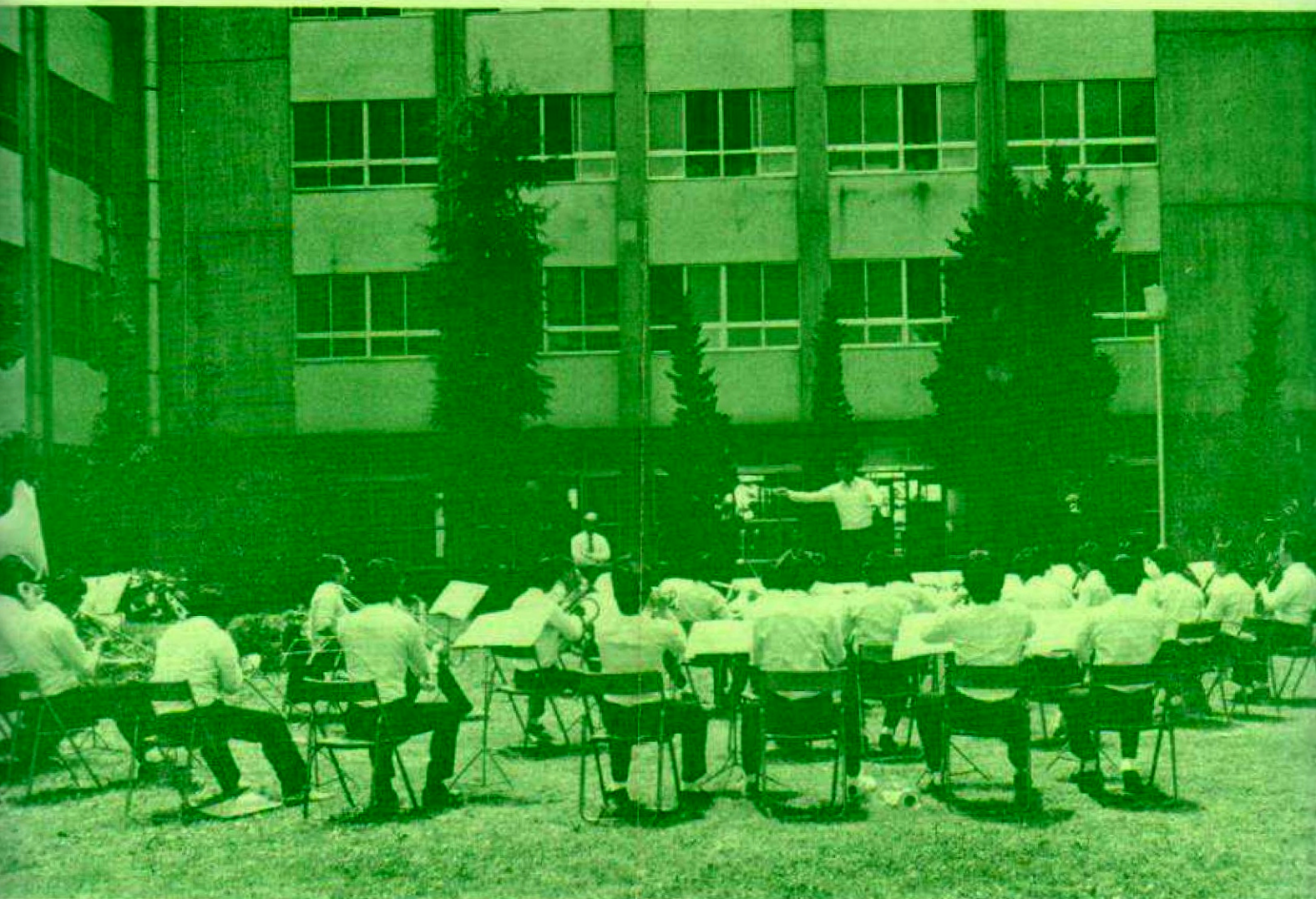


第23回 定期演奏会



1月27日(日) 1:30開場

千葉市民会館大ホール

主催：千葉県立千葉工業高等学校
吹奏楽部

後援：生徒会・吹奏楽部OB

第23回 定期演奏会

Conductor 中川 自通

本日はお忙しいところ多数お出で頂き誠にありがとうございます。
私が本校のバンドでタクトを握って3年、千葉工業のサウンドはこうあるべきだと理想をもって指導に当たってまいりましたが、部員数も少なく、また3年経つとメンバーが変わってしまうという学生バンドの宿命もありまして、なかなか思い通りにはまいりません。その中で、私は大曲を1曲、そればかりを吹いていて、基礎的な音階や3度の音程まで忘れられてしまうのを恐れて、常にファーストデビジョンやスケールなどの教則本をコンクールの前日にも徹底的にやるという方針をとってきました。また生徒たちは曲のもつ内容の把握とか表現力において個人差があり、その指導に困難を感じます。合宿などをやり、常に生徒と接し、生徒との振れ合いを大切に、技術の偏重のみならず、その中から少しずつ成果を期待していこうと思います。

千工吹メンバー

校長	秋山 利雄	指揮	中川 自通
顧問	山本 義彦	学生指揮	福恵 尚人
同	江沢 英仁		
同	吉田 達夫		

フルート	サクソフーン	ホルン
梶原 裕二 (3)	佐藤 義徳 (2)	福恵 尚人 (3)
クラリネット	渡辺 俊一 (1)	林山 洋一 (3)
白尾 健治 (2)	トランペット	風外 昭紀 (2)
川崎 晴久 (2)	伊藤 孝一 (3)	チューバ
高橋 誠 (2)	村田 孝治 (2)	小林 克典 (1)
鈴木 啓司 (1)	和田 嘉章 (1)	清水 芳明 (1)
相野 喜昭 (1)	トロンボーン	パーカッション
小出 義成 (1)	伊藤 博幸 (3)	梶木沢孝幸 (2)
松田 竜美 (1)	熊谷 敦史 (2)	吉野大三郎 (1)
ファゴット	野中 昭儀 (1)	永井 文生 (1)
大槻 修敬 (1)	白鳥 伸夫 (1)	
オーボエ		
井上 光一 (1)		

それには週一回でも各人が意見を言う時間をもつことである。最後になりましたが本日は多数ご来聴いただきまして、誠にありがとうございます。未熟な演奏ですがごゆっくりお聞き下さい。



トロンボーン 伊藤 博幸

私がこの部に入ってから、もう三年も過ぎようとしている。……なんて書けばカッコ良いのだろうかけれど、驚くなかれ私は「三年生の新入部員」なのです。冗談ではなく、去年新しく吹奏楽研究クラブというのができ、ついふらふらと入ってみたのが悲劇の始まり。三年生まで部員に勧誘するところが、我が部の状態を切実に示している。これからの私は「変わり者」と呼ばれることに耐え、技術の未熟さは新入部員といって、新部という弱味は三年生の特権で乗り切ってきました。が、我トロンボーンパートは「音程が悪い」「音が小さい」「バランスが悪い」とか皆の非難を一手に引き受け、「鳴らぬトロンボーン」と噂されているとか……入部一ヶ月で高校野球の応援に連れ出され、夏の合宿を経て二ヶ月目にはコンクールに出されたのにはいささか閉口したが、今日は高校生活最後の思い出にするために、ガンバリマス。



フルート 梶原 裕二

私がこの千葉工業高等学校吹奏楽部に入って、まず感じたことは部室のひどさである。校舎のはずれにボクンとあるこの部室は、冬は超冷房、夏は超暖房、冬などは部室の中の方が寒い。こういう環境で3年間も過ごしてきたのである。何度か止めようと思いついた止めようとしたが結局はこうして最後まで来た。いま考えてみるとこの吹奏楽部に入ったことは自分にとっては大きなプラスだと思う。千葉工業はほとんど女子が多い。男子校といってもいいであろう。野郎どもばかりであるが迫力はある。千葉工業に入ったらぜひ我がブラスバンドに入ってもらいたい。この学校に入学しこのブラスバンドに入ったことは、私のよい思い出となるであろう。

本日はお寒い中を千葉工業高校吹奏楽部第23回定期演奏会のために、多数お越し下さいまして、誠に嬉しく、心からお礼申し上げます。私たちの現在のバンドは環境・条件が必ずしも満たされているとは思いませんが、この一年、「千葉工業のサウンドはどうあるべきか」試行錯誤しながらも、ある方向に向かって再出発したところであります。本日ここにその成果を発表させていただきます。どうぞ最後までお聞き下さいまして、きたんない御批判をいただき、今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。

吹奏楽部顧問 山本 義彦

曲 目

- 部 指揮 中 川 自 通
- o 千工マーチ…………… 荒 川 一 郎 作曲
 - o 青春は限りなく…………… 奥 村 一 作曲
 - o 吹奏楽のための小狂詩曲…… 大 栗 裕 作曲
 - o Bandology …………… Eric Osterling

- 部 指揮 福 恵 尚 人
- o トランペット吹きの日…Leroy Anderson
 - o サムシング…………… G.Harrison
N.Iwai
 - o 涙のトッカータ…………… G.Rolland
K.Urata
 - o ポップス“メインストリートで”…岩 井 直 博
 - o 幼い日の思い出…………… 藤 田 玄 播
 - o Thank you for the music
…………… Benny Andersson

- 部 指揮 中 川 自 通
- o エグモント…………… ベートーベン
 - o 新世界より“第四楽章”…………… ドボルザーク

司会 黒 木 博 子

3 年 生 紹 介



トランペット 伊 藤 孝 一

ついこの間入部したかと思ったらもう3年。この晴れの演奏会を最後に、今引退しようとしています。2年前の定期演奏会で「吹奏楽部を続けて良かったですか」とインタビューされたとき、私は「まだよくわからない」と答えた。しかし今は違います。吹奏楽の楽しさを知った今はもう夢中です。本当に3年間吹奏楽部を続けて良かったと思います。将来、機会があれば吹奏楽を続けたいと思います。

長いようで短かったこの3年間、あっという間に過ぎてしまった。最初のうちは楽譜もろくに読めず、音は出さず満足にトランペットを操作することができなかった。今日はどうかなあ……。でも自分なりにこの演奏会のために、毎日日曜日でも休まずに夜遅くまで練習してきました。未熟ではありますが最後までごゆっくりお聞き下さい。



ホルン 福 恵 尚 人

本日は千工吹の定期演奏会にようこそお出で下さいました。さて、私がこの学校に来てからの三年間について少し話をしてみます。まず学校に入りたての頃はものすごく平和でした。しかし、その日はついにやってきました。友達と一緒に帰ろうとして玄関を出ると、そこに二人の男がやってきました。何かなあと思っていると、一人の男が「ブラバンに入らないか」と言いました。そしてしばらく話を聞かされ、ついにあの恐怖の物置き小屋のような所へ連れて行かれました。楽器はホルンという変なものを手渡されました。それ以来、その変なものと共に三年間つき合ってきました。3年になって指揮者もやらされて、三年間ずっと普通の高校生のような生活はできませんでした。が今は充実感で満足しています。今日の演奏会も力一杯演奏いたしますので最後までお聞き下さい。



ホルン 林 山 洋 一

この部に入りいろいろな事を考え学んだ。その中で部員が各人を十分理解し、尊重し合うことが一番大切な事だとこの頃感じるようになってきた。なぜならある部員が止める場合でも、ほとんどの部員は何も感じない。ただその人が部を止めることによって部員が減る。減ればコンクールで優勝できない。そう思うだけである。又、止めなくとも部を長い間休めば「やる気がないから止めさせよう」なんて言い出す人もいる。止めようとする人がいればどうして急に止めるなんて言い出したんだろうと考えないのだろうか。本当に部を良くしようと思えば、お互いをよく理解し合う、そしてその人を尊重し助けあい、社会に出た時もまごつかず一直の考え方ができるようにするのが、本当の高校の部活ではないでしょうか。